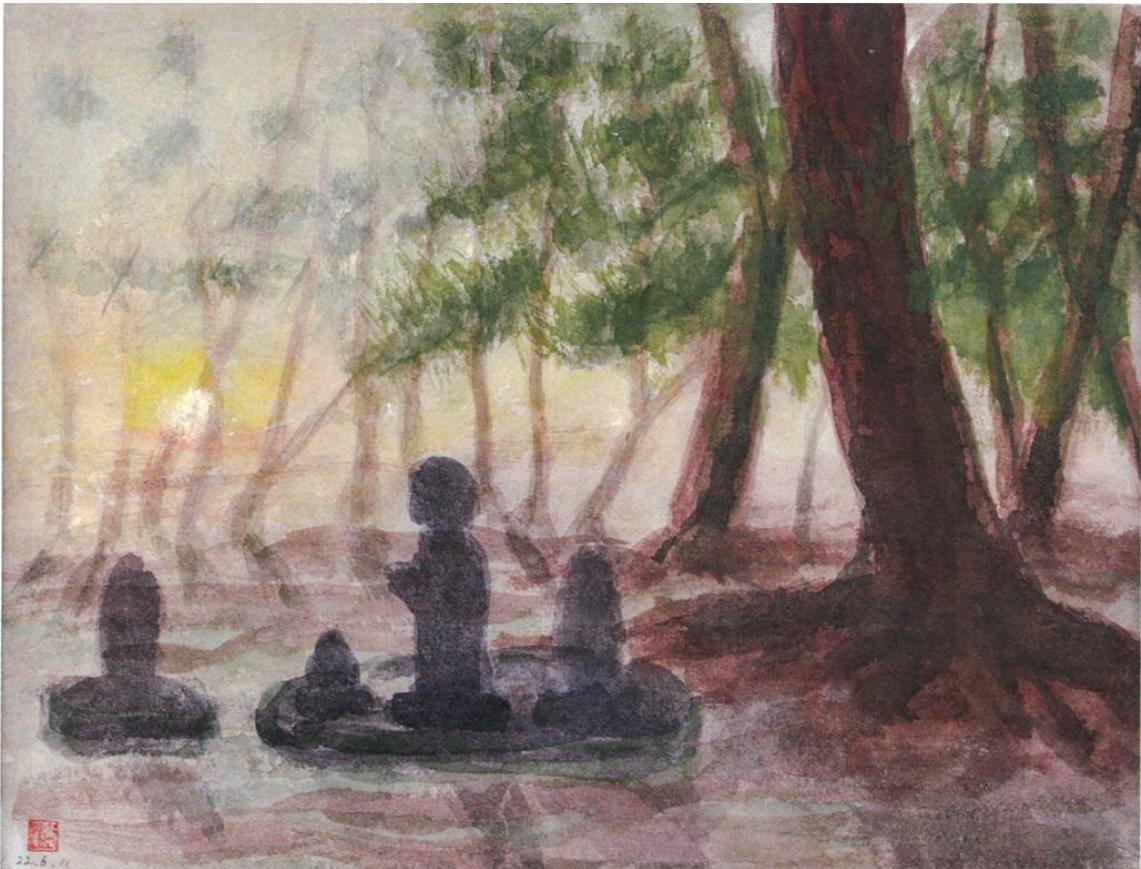


つまりぼーと

(一社)十日町市中魚沼郡医師会 会報

第48号 平成27年8月発行



「閉村の石地藏」

大島医院 院長 大島 義隆

一般社団法人 十日町市中魚沼郡医師会

巻頭言 富田 浩	1
理事就任の挨拶 阪本琢也	7
理事就任の挨拶 丸山 弦	8
十日町市の介護行政 大森佐一郎	9
とおかまち地域ケアネットの活動状況について	14
十日町市在宅医療連携モデル事業活動状況について	17
地域医療研修コーディネーター育成事業報告について	19
十日町市中魚沼郡学術講演会及び 研修会、セミナー等開催報告	23
平成 26 年十日町地域産業保健事業実績報告	25
事業報告	26
入会のご挨拶 大坪隆男	29
お知らせ・編集後記	30



医師会長 2 期目の抱負

—巻頭言に代えて—

医療法人社団 富田医院
院長 富田 浩

この度 6 月 23 日に開催されました平成 27 年度第 1 回通常総会で、十日町市中魚沼郡医師会長 2 期目就任をご承認いただきました。地域医療をめぐる状況は日々大きく変化しており、一般社団法人移行のため 3 年間となった前期は対応に追われる毎日でした。そして課題の多くは未解決のまま残されています。例えば休日一次救急診療所の開設に関しては、川西国保診療所での 2 年間のセンター化の効果や収支についての検証が終わりました。今後は行政との折衝で早期に市中心部でのセンター開設を目指すこととなります。災害時医療対策については、再び大地震などの自然災害の脅威が迫っている中、行政や関係機関と一体となった行動指針の作成を企図しています。また、医療関係者間だけでなく、介護・福祉関係者との顔の見える連携の構築や、住民と医療・介護・福祉関係者への啓発活動にも力を注いで来ました。今後も継続・発展できればと思います。今後 2 年間の任期を使って少しでも目標に近づきたいと願っています。会員の皆様には一層のご指導ご鞭撻、そして医師会活動への積極的な参加をお願いいたします。

・地域医療・介護総合確保法について

今から十年後の 2025 年の日本の推計人口は約 1 億 2,114 万人、そのうち 65 歳以上人口は 3,657 万人(高齢化率 30.3%)に達します。特に団塊の世代を中心とする 75 歳以上の後期高齢者は 2,179 万人となり、今より 530 万人も増加します。高齢者には 64 歳以下と比較して一人当たり 5 倍もの医療費が掛り、介護費、年金を合わせると 2025 年には 150 兆円の社会保障費が必要となると推計されています。これが医療費の削減が急務とされる理由です。そのための様々な施策の一つとして昨年 6 月に可決された**地域医療・介護総合確保法**では、5 兆円ともいわれる消費税増収分より毎年 1,628 億円を新たな財政支援(医療・介護総合確保基金)として地域医療と介護の施設や設備の整備や、医療・介護従事者の確保に充てる他、「居宅等における医療の提供に関する事業」によって医療から介護への切れ目のない連携を推進するためのシステムが作られることとなります。

平成 26 年度から開始された**病床機能報告制度**により、今までの病床を高度急性期・急性期・回復期・慢性期病床に分け、急性期と慢性期を中心に、回復期および地域包括ケア病床への転換を図り、2025 年までに最大 20 万床の病床削減を目指します。医療機関の自主的な取組みで進めると記されていますが、診療報酬による誘導と、平成 27 年度より策定される**地域医療構想**での調整会議が地域の医療機能の必要量を定め、最終的には都道府県の調整によって病床数の削減が行われることでしょう。70%が民間である病院群にもますます国の統制が強まると思われます。これによって入院医療費の削減が図られるのと同時に、推計 30 万人の入院患者が病院から施設か在宅へ移ら

ざるを得なくなります。

また、同時に膨らみ続ける介護費用を抑制するために、施設から在宅介護へのシフトも必要となります。介護費用の自己負担率を2割に増やし、特養の入所基準を原則的に要介護3以上に引き上げ、要支援対象者のサービスの一部を市町村の地域事業へ移行するなど、これまでの介護保険の仕組みも大きく変更されます。地域支援事業の拡大は、国の関与と財源を県・市町村・民間へ委譲することにより、介護費用の支出を抑えることが目的と考えられます。その結果、介護度2・1の利用者は特養へは入れず、通所か在宅(在宅にはサ高住などの自宅外の施設も含まれます)介護となり、要支援の通所介護利用者は、在宅にとどまるか、市町村営、民間、ボランティアなどの運営するサロンなどを利用することになります。もちろん地域医療・介護総合確保基金では、受け皿としての介護施設の整備にも予算は割かれていて、地域密着型施設として小規模多機能型居宅介護(宿泊可能)や複合サービス型(訪問看護を併設)が推奨されています。しかし、スケールメリットが失われるため経営は苦しいと予想され、地域密着とは言っても、都市部と異なり単位となる中学校区が徒歩圏内とはとても言えない程広い田舎での開設は実情にそぐわないものとなるでしょう。結局、病院へ入院できない要医療者、施設入所できない要介護者や要支援者のために、さらなる在宅医療と介護の充実が求められることとなります。

在宅医療の担い手の中心は診療所医師です。2014年の日本医師会のアンケート調査では、過半数の内科・外科診療所が訪問・往診などの在宅医療を行っていますが、同年の診療報酬改定では24時間対応の機能強化型在宅療養支援診療所への登録を促して、診療報酬上の誘導を図るものの算定要件が非常に厳しく、また一部の医療者と民間業者が引き起こした社会問題から発した、同一建物での同日複数家への訪問診療の規制などにより、むしろ在宅医療の意欲が削がれるような改定となっています。そして、次期診療報酬改定では、在宅医療へのインセンティブは若干強化されるかも知れませんが、今後の医療費の自然増を抑制するためおそらくより厳しいものとなることでしょう。また、医療行為の一部を看護師に行わせる「特定行為に係わる看護師研修制度」を立ち上げることで、訪問看護師に在宅医療の大部分を担わせ、医師による訪問診療自体の縮小も図ろうとしているかも知れません。結局、医療・介護総合確保法とは、実のところは医療・介護総合抑制法ではないのでしょうか。もちろん国の財政が破綻してもらっては困ります。しかし、他に見直すところはないのだろうかとの疑問は医療者のみならず国民の多数が感じていることだと思います。

・妻有地域の現状と将来像について

すでに高齢化率が30%を超えた当妻有地域は、日本の2025年問題を先取りしていると言われてきました。しかし、地域の実情を考えれば考えるほど、この土地にしかない問題が多く浮かび上がります。例えば冬の豪雪、東京都より広い地域の山間部まで散らばる集落、一階が車庫になっている高床式の家など、訪問診療や介護を阻む要素がたくさんあります。また、高齢独居や老夫婦あるいは独身者の子供と暮らす家も増えていて、家族の手による介助を前提とする在宅医療・介護自体が成り立たなくなっています。

それでは今後10年間にこの地域では何が起こるでしょうか？ 図1は2025年を挟む妻有地域の人

口動態を推計したものです。第1に当地域ではすでに高齢者人口は一定のレベルに達して増えないことが判ります。図2は将来の死亡数の推計です。2015年と比較して2025年には十日町地区で60名程度の死亡数増加が予想されますが、現在の体制で対応は可能と思われます。(※註:この原稿を書き上げてから、厚生連中条病院および町立津南病院の病床機能縮小が発表となっています)すなわち医療ニーズの急激な増加は見込まなくてよいこととなります。第2に高齢者を支える生産人口が確実に減って行きます。2025年には高齢者一人を現役世代約1.2人で支えることとなります。このことは経済的バックグラウンドの減少のみならず、実際に家庭や施設等でのマンパワーの不足が生じることを意味しています。しかも、前述のように高齢者独居や2人世帯が増えているため、介護サービスを受けようと新規に介護認定を申請する高齢者は増加し、介護のニーズは一層高まると予想されます。図3は過去9年間の入院や通院で医療を受けた患者延数の減少と介護認定者数の増加を示しています。これからも人口減に伴って要医療者は減り続けますが、要介護者は一定のレベルに達するまでは増え続けると予想されます。

今後の情勢を分析して、地域の実情にあった在宅医療や介護の計画を立てる必要があります。その際は大都市や他の地域とは違った対策が必要になることでしょう。もし在宅医療や介護が立ち行かないと判れば、時代に逆行してでも入所型介護施設の増床など別の方策を探す必要があると思われます。

そして最大の問題は、現在の医療や介護体制をこれからも維持できるかどうかにあります。当医師会の診療所会員の平均年齢は昨年末の時点で60.6歳となり、65歳以上高齢化率は40%にも達しています。今後は外来患者数の減少も見込まれますが、後継者のいない診療所も多く、2025年に現在の診療体制や学校・住民・産業保健を維持できるかは不透明となっています。介護の分野でも人材不足は深刻化しつつあると聞いています。豪雪、過疎、教育レベルの低下、交通網の整備の遅れ、基幹産業の衰退などマイナス要因ばかり思い浮かぶ当地ですが、近い将来に、故郷の人たちのための医療・介護・福祉・保健に貢献できる人材が戻って来てくれるでしょうか。十日町市は今年度より大胆な財政援助による医師・看護師等の確保策も打ち出しましたが、少しでも早くその効果が現れることを期待するものです。

・地域在宅医療推進センターについて

当地域のような医療資源、介護資源の少ない地域では、より密接な医療者間の協力体制や多職種間の連携を作ることが急務です。これまでに当医師会では、平成25年度からの在宅医療連携推進事業で十日町地域在宅医療連携協議会(とおかまち地域ケアネット:代表山口義文先生)を立ち上げ、県のモデル事業へ応募して(十日町市在宅医療連携モデル事業)、ICTを利用した特養・在宅看取りネットワークの構築などを進めて来ました。また、在宅医療・介護への理解を深めるための啓発事業としても、地域医療再生基金を利用した医療・介護従事者の研修会(医療従事者のためのスキルアップ研修)や住民対象の講演会(住民の医療参加促進)を行政とともに行って来ました。そして、これらの事業を今後も継続・発展させることが当医師会の使命と考えています。しかしながら、会費収入以外に自主財源を持たない当医師会がこれらの事業を継続するためには、補助金や基金

事業として取り組み続けなければなりません。

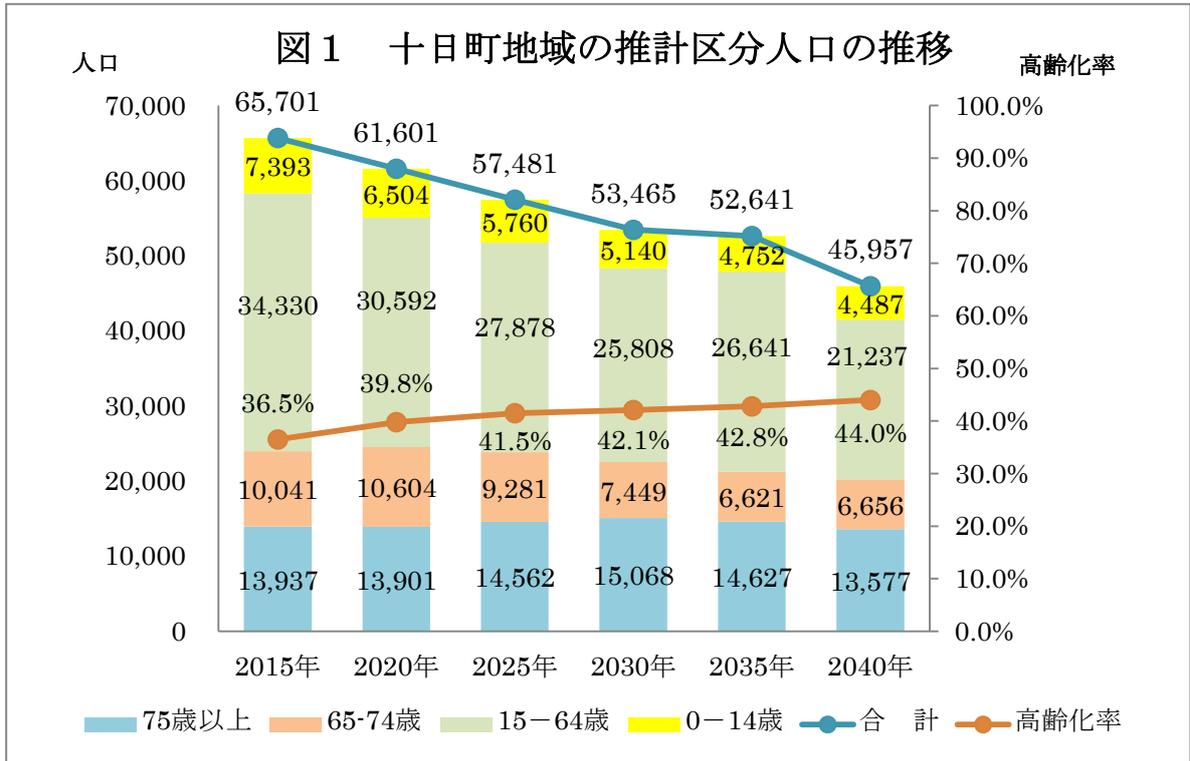
その受け皿となるのが十日町**地域在宅医療推進センター**です。在宅医療推進センターとは、地域医療・介護総合確保基金の医療分の運用を新潟県医師会が受託し、県医師会が主導して郡市医師会毎に開設を目指すものです。県医師会は基幹センターを開設してサポートに当たりますが、各郡市医師会の在宅医療推進センターには地域の実情に合わせた主体的運営が求められます。その内容は、在宅医療推進協議会の設置・運営、ICTによる医療介護情報の共有、在宅医療・介護連携のための相談員(コーディネーター)の育成、在宅医療に関する普及啓発を行うこと等となっています。図4は、これまでの当医師会が取り組んできた事業を継承して一体的に運営管理する、十日町地域在宅医療推進センターの概要について示したものです。今後は在宅医療を支える後方支援病院群や訪問看護ステーションとの協議がさらに必要となることでしょう。

加えて、市町村が設立する**地域医療介護連携センター**を十日町地域在宅医療推進センター内へ誘致できるかどうか重要なポイントとなります。地域医療介護連携センターは、市町村が実施主体となって医療・介護総合確保基金の介護分を運用し、地域の医療・介護の関係機関や団体等と協力して、地域の医療・介護の関係者が参画する会議の開催、在宅医療・介護連携に関する相談の受付、在宅医療・介護関係者の研修等の取り組みを実施します。市町村は、これらの事業を郡市医師会や地域包括支援センターなどに委託して運営できるとされています。一見しても推進センター事業とも重複するこれらの事業ですが、今後は市町村や地域包括支援センターと共同して適切な人材を配置し、在宅医療と介護の連携に関する相談窓口を開設することができれば、県内でもいち早く地域医療介護連携センターを開設できることでしょう。

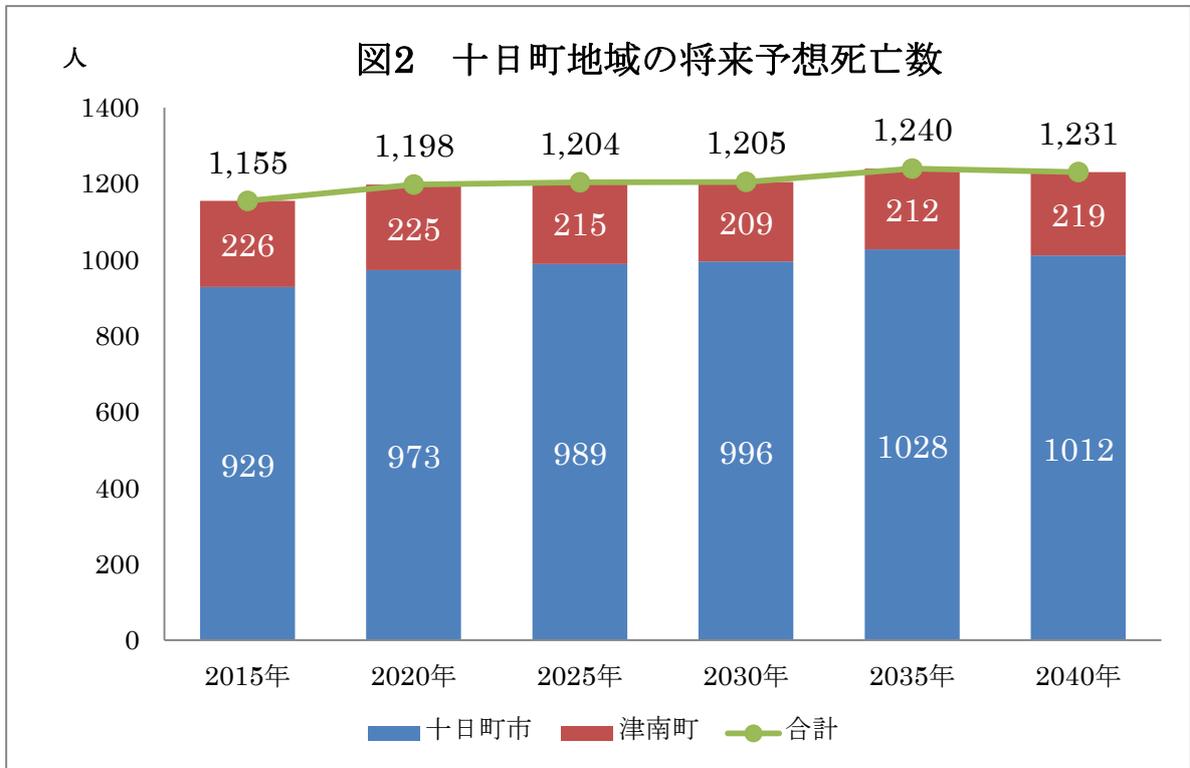
・これからの妻有地区のために当医師会が目指すべきものは？

膨大な経費(税金)をつぎ込んで、橋やトンネルを作り、過疎地の山間部の隅々まで道路を通し、除雪車を送り出し…。それらを止めて、安全で効率よく住める環境作りに費やすことはできないものでしょうか？行政には定住区域を設定して、山間地からの移住を進め、安全と安心に根付いた住環境の整備を進めて欲しいと思います。もちろん里山は荒れ、農耕地も人の手が入らなくなったところは自然に還って行くでしょう。しかし、もはや集約と効率化しか道はないと思われれます。当医師会も医療・介護・福祉を中心に考えた町づくり・ふるさとづくりに参加できることを願っています。地域全体が一つの病院や施設のようにつながる、そして三魚沼が一緒になってその理想を追い求めることができればなおいと思います。

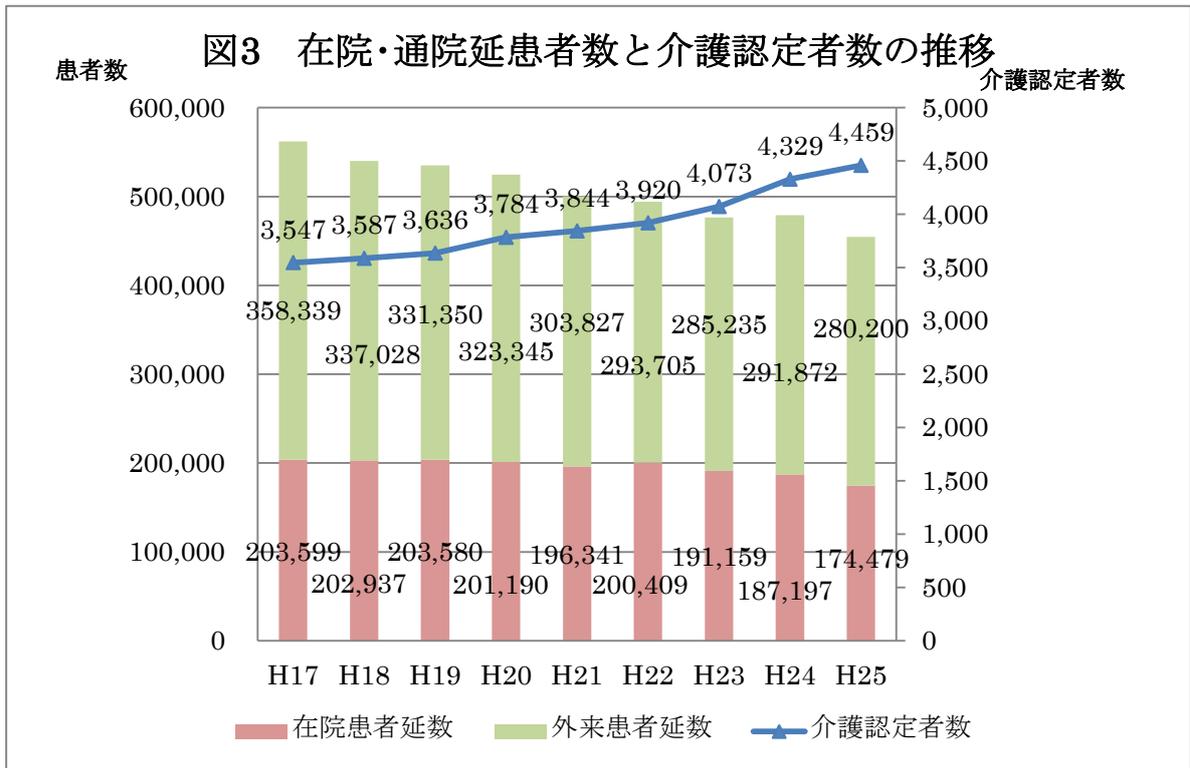
2025年まで残された時間で当医師会が何を目指すべきか？ぜひ会員の皆様のご意見をお聞かせください。



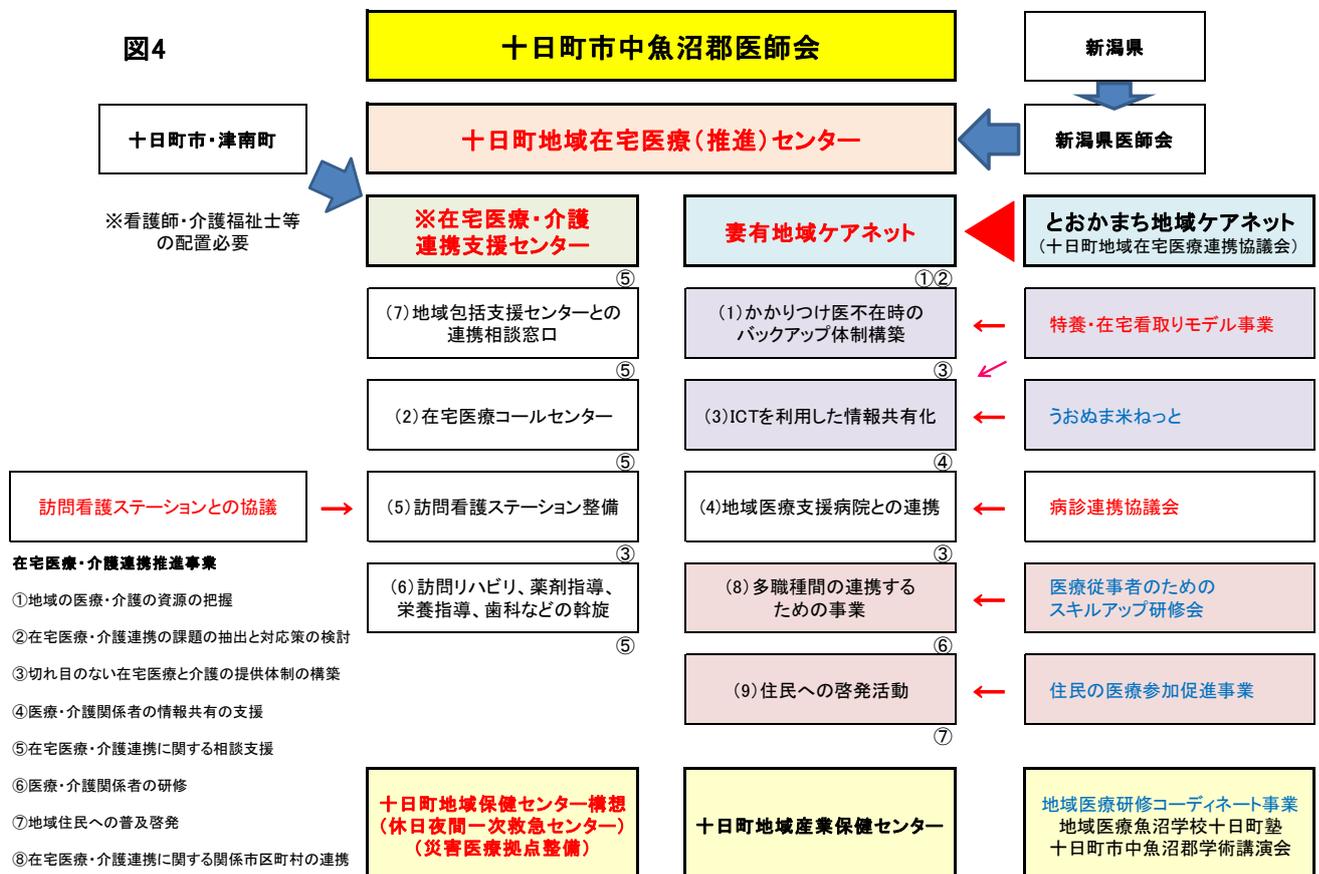
参考資料: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25年3月推計)」



算出根拠: 国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(H25年3月推計)」の5歳区分人口にH25年新潟県5歳区分死亡率を乗じて算出



出典：患者数(診療所患者は含まない)は「病院報告」、介護認定者数は「介護保険事業報告」





理事就任の挨拶

津南町立津南病院
院長 阪本 琢也

この度十日町市魚沼郡医師会理事に就任いたしました阪本琢也です。昨年四月より町立津南病院勤務となり、まだ医師会員として二年目の未熟者ですが、地域のためになるよう精一杯努力したいと思います。

自分は昭和三十三年東京生まれ、板橋区で五十年以上地域の医療を支えた下町の開業医の父の背中をみながら育ち、昭和六十年東京慈恵会医科大学を卒業、昭和六十二年青戸病院(現慈恵医大葛飾医療センター)内科に入局、研究面では脂質代謝、臨床では循環器を専門として従事、大学派遣として町立津南病院に三年半勤務しております。その他の派遣先として、在英邦人の診療、健康管理を担当する英国日本クラブ診療所で三年間、精神疾患や認知症の方の身体管理のための総合内科医として東京武蔵野病院で七年間、平成十九年からは企業を対象とした人間ドック担当医として武蔵野大学メディカルセンターに六年間勤務し、今回二十年ぶりの津南病院勤務となります。前津南病院院長の石川慎一郎先生は大学の先輩であり、自分に循環器のイロハを教えてくれた恩師でもあります。

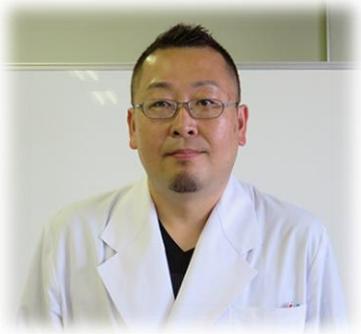
家族は花と料理を愛する妻、頼もしい社会人となった長男、薬学部三年の次男、メタボ気味の愛猫三匹。趣味は写真、ドライブ、映画鑑賞、PCの自作。大学時代は硬式野球部に所属、大のプロ野球ファンでもあります。津南町での勤務は単身赴任になり、家族にも負担をかけますが、愛妻も津南町、津南病院のためならと、快く津南病院長就任を後押ししてくれました。

二十年ぶりの津南町で、予想以上に医療資源の限られた地域医療での多くの問題、人口減少、少子高齢化、深刻な看護師、医師不足、老朽化した施設を目の当たりにして、少なからず衝撃を受けました。自分にとって津南町は2人の子どもを授かった思い出深い地でもあり、第二のふるさとのように慕っていただけに、現実の厳しさに背筋が凍る思いでした。またこの一年、医師会員として富田会長をはじめ地域の諸先輩方の苦勞を耳にし、自分に与えられた責任の重さもあらためて痛感しました。

問題は山積みではありますが、いつまでも変わらぬ豊かな自然と、日焼けした働き者の手を差し出し、柔らかな笑顔で、温かな津南弁のねぎらいの言葉をかけてくれる町のひとたちに日々癒されて、明日への活力が湧いてきます。自分の好きなひとたちのために、好きな町で、好きな仕事ができる自分は本当に幸せだと思います。

いかに問題を解決していくべきか、暗中模索状態ではありますが、母校の慈恵医大との協力体制を維持しながら、地域とのネットワークの再構築はもちろん、十日町地域への医師招聘にも積極的に取り組み、さらに病院組織、医療スタッフ業務内容の見直し、看護師、常勤医の確保など医療体制の再編成により、当地域で必要とされる病院機能を維持、拡張したいと考えております。

常に心のアンテナをはり、広い視野、見る目、聞く耳を持ち、目の前の小さな問題にもひとつずつ対峙し、津南地域、津南病院だけでなく十日町地域全体のためになるよう、決して下をおくことなく、努力し続けたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。



理事就任の挨拶

新潟県立十日町病院
内科部長 丸山 弦

この度、十日町市魚沼郡医師会理事に就任いたしました丸山 弦です。
平成 17 年 5 月より十日町病院に勤務しており、本来もっと早く入会するべきだったのですが、入会がごく最近になり、至らぬ点も多くあると思いますが、これからも地域のためになるよう努力して参りますので、宜しくお願い致します。

私は昭和 46 年この十日町市(旧川西町)に生まれ、高校時より医師を目指し、平成 2 年十日町高等学校を卒業。(あさだ皮フ科 浅田一幸先生とは高校の同級生です)

平成 8 年金沢医科大学を卒業、平成 8 年より沖縄県立中部病院で研修、その後 2 年間 離島勤務をし、新潟大学第三内科入局、以後大学病院、新潟市近隣の病院で消化器内科として勤めておりました。

中越地震の翌年、平成 17 年春、同門の大先輩である現十日町病院 院長 塚田芳久先生と共に当院に赴任し 10 年になりました。

この 10 年を振り返りますと、この地域の人口減少、少子高齢、医師看護師不足などの多くの問題は 10 年前から言われており、分かっていた問題であり、これまでは個々で対応、対策、または先送りになっていたのではないのでしょうか。実際、ここ最近の医師看護師不足が現実となり、瞬く間に病院病棟の縮小、閉鎖など厳しい現実を突き付けられました。

医療、介護制度も物凄いスピードで変わってきており、この十日町市、中魚沼郡地域の医療、介護を守るために、地域の医療連携、介護との連携の構築、強化、一本化が必要であり、この限られた医療資源を有効かつ効率的に利用していかなければなりません。これには医師会だけでなく、行政の力、住民の協力無くしては出来ません。この地域が今後の医療、介護制度のモデルになれるようなビジョンで、微力ではありますが日々努力し続けたいと思います。

富田会長をはじめ、地域の諸先輩方より、今後とも御指導のほど宜しくお願い致します。



十日町市の介護行政

介護老人保健施設 きたはら

施設長 大森佐一郎

(十日町市介護保健運営協議会委員)

平成 26 年度 十日町市中魚沼郡医師会 第 2 回通常総会において、十日町市介護保健運営協議会資料(平成 26 年度第 2 回会議)の概略をご報告いたしました。

この報告も通常総会時の資料を参考としてご説明申し上げます。

「介護保健運営協議会」は 15 名の委員で構成されております。公益代表 2 名、公募委員 5 名、医師会・歯科医師会各 1 名、介護福祉施設 2 名、看護関係 2 名、居宅事業所 2 名となっております。

1) 高齢者の現状・介護認定者数

表(1)のように、総人口は微減を続ける一方、高齢者人口は徐々に増加しております。それに伴い高齢化率は必然的に上昇しております。表(2)は、要介護認定者数です。27 年度を例にとると高齢人口は 19,988 人(表(1))この年の要介護認定者数は 3,834 人(表(2))となっております。

年間約 20% 弱の高齢者が介護認定を受けていることとなるようです。

▲表(1) 高齢者人口の推計 (単位：人・%)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 37 年度
総人口	55,643	54,983	54,324	48,967
65～74 歳	8,690	8,768	8,845	7,727
75 歳以上	11,298	11,323	11,348	12,161
合計	19,988	20,091	20,193	19,888
高齢化率	35.9%	36.5%	37.2%	40.6%

※国立社会保険・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年 3 月推計)」をもとに算出

▲表(2) 要介護等認定者数の推計 (単位：人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 37 年度
要支援 1	286	300	317	341
要支援 2	460	505	550	610
要介護 1	628	629	630	710
要介護 2	732	732	734	791
要介護 3	678	727	783	953
要介護 4	657	680	703	817
要介護 5	392	371	347	351
総計	3,834	3,943	4,064	4,573

2) サービスの利用者数

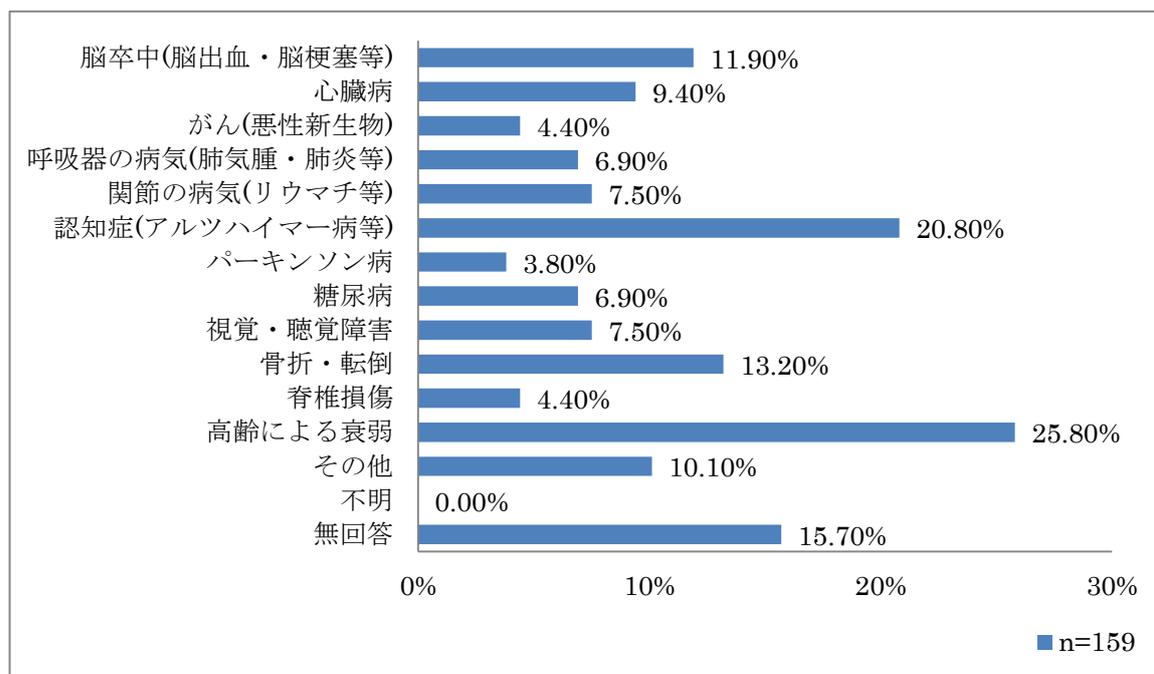
利用者数は下表(3)を見ると要介護認定者の約 27%がサービスを利用することとなっているようです。

▲表(3) 施設・居住系サービス利用者数の推計 (単位:人)

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 37 年度
施設・居住系サービス利用者数	1,028	1,057	1,057	1,084
施設利用者	898	918	918	918
介護老人福祉施設	478	478	478	478
介護老人保健施設	322	322	322	322
介護療養型医療施設	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設	98	118	118	118
居住系サービス利用者	130	139	139	166
認知症対応型 共同生活介護	54	63	63	90
特定施設入居者 生活介護	76	76	76	76
地域密着型特定施設 入居者生活介護	0	0	0	0

3) 介護介助が必要となった原因

下表のグラフによりますと「高齢による衰弱」「認知症」「骨折 転倒」「脳卒中」などが高い頻度となっております。先生方の御日常の診療の中で感じておられる印象に近い結果ではないでしょうか。



4) 介護保健事業計画

第6期介護保険事業計画(平成27年～29年)において示されている理念は「ともに支え合いみんなが安心して心豊かに暮らせるまちづくりをめざして」とされており。

重点課題として

- 1) 在宅医療・介護連携の推進
- 2) 認知症支援施策の推進
- 3) 生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進
- 4) 高齢者の住居安定にかかる施策との連携

等がかかげられております。

5) 施設サービス

その種類の定員は

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 9施設 定員 539名

介護老人保健施設(老健) 4施設 定員 410名

となっております。(平成26年6月1日現在)

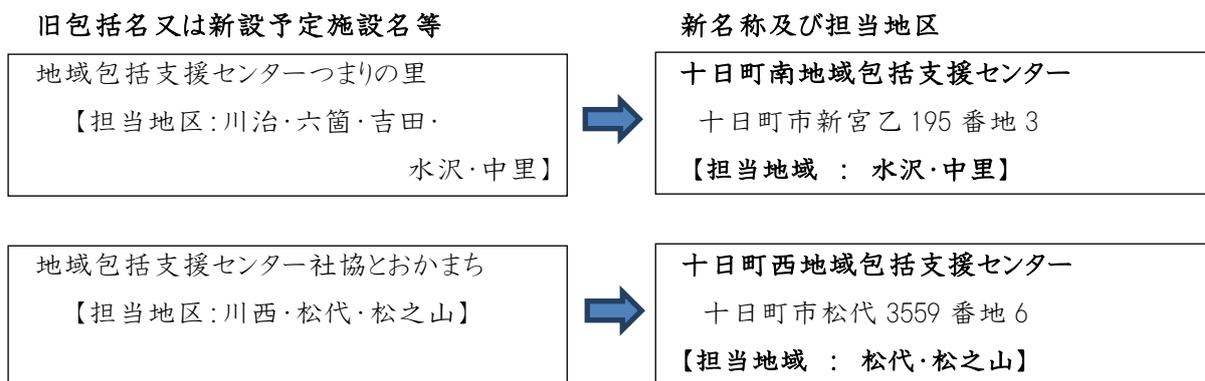
6) 地域密着型サービス

認知症の方をはじめ、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために用意されているサービスです。原則として他市町村のサービスは利用できません。サービスの内容は複雑であるためここでは割愛させていただきます。

先生方が関わっておられる具体的な症例についてどのような施設・サービスが利用可能かということに関しては「地域包括ケアセンター」へご相談くださればよいのではないのでしょうか(表(4))。個々の患者様にはケアマネージャーが関与してくれると思いますが、尚、十日町市 市民福祉部 福祉課 介護保険係(TEL:025-757-3111(代表))には「介護保険サービスガイド」が用意されております。

▲表(4)

旧包括名又は新設予定施設名等	新名称及び担当地区
(三好園) 【新設】	十日町北地域包括支援センター 十日町市下条3丁目485番地1 【担当地域：下条・中条・川西】
地域包括支援センター三好園しんざ 【担当地区：十日町・新座・大井田・ 下条・中条】	十日町東地域包括支援センター 十日町市新座甲609番地2 【担当地域：十日町・新座・大井田】
(やまびこ) 【新設】	十日町中地域包括支援センター 十日町市千歳町2丁目3番地6 【担当地域：川治・六箇・中里】



7) 介護保険財政

十日町市における「介護保険給付費の見込み額」として表 5 に示されております。これは介護保険料を算出する基礎数字ではありますが、これを財政規模と考えると良からうかと考えます。概算で平成 27 年度は 66 億円、28 年度は 69 億円となっております。この財政規模で介護保険財政は運営されているということでしょうか。

▲表(5) 標準給付費

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	合計
標準給付費見込額(A)	6,593,483,295 円	6,919,799,047 円	7,006,601,798 円	20,519,884,140 円
総給付費(一定以上の所得者負担の調整後)	6,092,626,000 円	6,394,154,000 円	6,474,363,000 円	18,961,143,000 円
特定入所者介護サービス費等給付額	359,464,934 円	377,255,086 円	381,987,417 円	1,118,707,437 円
高額介護サービス費等給付額	121,852,520 円	127,883,080 円	129,487,260 円	379,222,860 円
高額医療合算介護サービス費等給付額	12,185,252 円	12,788,308 円	12,948,726 円	37,922,286 円
算定対象審査支払手数料	7,354,589 円	7,718,573 円	7,815,395 円	22,888,557 円
審査支払手数料支払件数	122,576 件	128,643 件	130,257 件	381,476 件

8) 介護保険料

所得段階を 11 段階に階層化して計算されております(表(6))。第 5 段階(標準)の場合、保険料は 5,700 円(月額)と設定されております。県下 30 自治体の介護保険料が公表されていて十日町市は 20 順位となっております。因みに最高額の介護保険料は 6,991 円(月額)であります。以上ご報告申し上げます。

▲表(6) 第6期 保険料

住民税課税状況		要件(前年の所得等)	所得段階	基準額に 対する割合	月額保険料 (円)	年額保険料 (円)
世帯員	本人					
非課税	非課税	・生活保護の受給者 ・老齢福祉年金の受給者 ・合計所得金額+課税年金収入額が80万円以下	第1段階	0.50 (0.45)	2,850 (2,565)	34,200 (30,780)
		・合計所得額+課税年金収入額が80万円を超えて120万円以下の人	第2段階	0.75	4,275	51,300
		・第2段階に該当しない人	第3段階	0.75	4,275	51,300
課税	非課税	・合計所得金額+課税年金収入額が80万円以下の人	第4段階	0.90	5,130	61,560
		・第4段かに該当しない人	第5段階	1.00	5,700	68,400
	課税	・前年の合計所得額が120万円未満の人	第6段階	1.20	6,840	82,080
		・合計所得金額が120万円以上190万円未満の人	第7段階	1.30	7,410	88,920
		・合計所得金額が190万円以上290万円未満の人	第8段階	1.50	8,550	102,600
		・合計所得金額が290万円以上400万円未満の人	第9段階	1.70	9,690	116,280
・合計所得金額が400万円以上600万円未満の人	第10段階	1.75	9,975	119,700		
・合計所得金額が600万円以上の人	第11段階	2.00	11,400	136,800		

※()は世帯非課税者に対する別枠公費による軽減後の額

無味乾燥な数字ばかりのご報告となり恐縮です。日常の御診療の一助となれば幸甚です。

とおかまち地域ケアネットの活動状況について

十日町地域振興局健康福祉部
副部長 中村哲士

1. 経緯

平成 24 年3月に、在宅医療に関する方針が医療法に基づく「医療提供体制の確保に関する基本方針」に盛り込まれました。

これを受けた国の動きとしては、国の「地域医療計画」の中にも在宅医療が位置付けられるとともに、「在宅医療・介護あんしん2012」が策定され、各地域が在宅医療を推進していくこととされました。

新潟県においても、平成 25 年3月の「新潟県地域保健医療計画」の改訂で在宅医療の計画を加えるとともに、8月には「新潟県高齢者地域ケア推進プラン」を策定し、各保健所単位で医療及び介護の多職種の連携により在宅医療・介護サービスが継続的・包括的に提供できる体制づくりに取り組むこととなりました。

十日町地域においては、平成 25 年6月4日に貴会をはじめとした在宅医療・介護に関与する各団体と、十日町市、津南町及び当部で「十日町地域在宅医療連携協議会準備打合せ会」を開催し、以降、これを含めて3回の準備会を経て、平成 25 年 12 月 25 日に「十日町地域在宅医療連携協議会(とおかまち地域ケアネット)」が正式に発足しました。

2. 目的と構成団体

「とおかまちケアネット」は、その設置目的を「高齢や病気になっても住み慣れた地域や自宅で自分らしい生活を送ることができるよう、多職種の連携により医療・介護サービス等が継続的・包括的に提供できる体制づくりに向けた取組について協議する」こととしています。

在宅医療・介護に関わる多職種の代表の方から委員に就任していただいております。会長には、発足当初から、貴会の山口義文副会長にお就きいただいております。

「とおかまち地域ケアネット」参加団体

・十日町市中魚沼郡医師会	・新潟県立十日町病院	・小規模多機能型福祉施設
・十日町市中魚沼郡歯科医師会	・町立津南病院	・十日町市
・魚沼薬剤師会十日町市中魚沼郡支部	・訪問看護ステーション	・津南町
・栄養士会十日町支部	・地域包括支援センター	・新潟県十日町地域振興局
・十日町地域介護支援専門員連絡協議会	・在宅福祉施設	健康福祉部

3. 活動内容

「とおかまち地域ケアネット」では、設置目的を具体化させるために、3つの分科会(調査班、研修班、啓発・普及班)を設けて活動を行っています。

調査班では在宅医療・介護等に関する実態の把握を、研修班では在宅医療・介護等に関する多職種による研修会の開催を、普及・啓発班では住民の方への在宅医療・介護等の普及・啓発を活動の目的としています。

分科会(班)	活動内容
調査班	在宅医療・介護に関する現状を把握・分析するための各種調査の実施
研修班	保健、医療、福祉の各分野の、顔が見える関係づくりと研修の実施
普及・啓発班	講演会やパンフレット等による住民の方への普及・啓発

これまでの活動実績及び今後の活動予定としては、調査班が行う各種調査は平成 26 年度中に実施済みで、現在は集計・分析中です。これらは今年度後半には公表する予定としております。

研修班が行う多職種が連携するための研修では、講師による講演会と事例検討会とを平成 26 年度までに9回開催し、平成 27 年度も4回の事例検討会をはじめとした研修会を計画しております。

普及・啓発班が行う住民の方への普及・啓発では、平成 26 年度に講演会を2回開催し、平成 27 年度も講演会を開催するとともに、上記の調査結果を踏まえたパンフレットを作成、配布する予定としております。

(1) 調査の実施内容

	調査対象	調査方法	回収率
①	十日町市・津南町の満 40 歳以上の住民	無作為抽出	578/1,000
②	十日町市・津南町で業務を行う介護支援専門員	全数調査(無記名式)	73/92
③	十日町市・津南町の病院・診療所、歯科診療所	全数調査(記名式)	58/58
④	十日町市・津南町の高齢者入所施設	全数調査(記名式)	24/24

(2) 研修会の実施内容

	開催日	開催方式	開催内容	備考
①	H25. 11/7	講 義	講師:上村医院 上村伯人先生	
②	H26. 5/20	講 義	講師:新潟県医師会 吉沢浩志先生	医師会主催
③	H26. 7/9	講 義	講師:仙台往診クリニック 川島孝一郎先生	十日町市主催
④	H26. 8/20	事例検討	事例:単身者の退院支援にかかる対応	
⑤	H26. 8/20	講義+ 事例検討	講師:新潟市地域包括支援センター 小山弓子先生	医師会主催
⑥	H26. 10/20	事例検討	事例:認知症者への対応	
⑦	H26. 11/26	講 義	講師:新潟大学 山内春夫先生	医師会主催
⑧	H27. 3/18	事例検討	事例:高齢者虐待事例への対応	十日町市主催
⑨	H27. 3/23	講 義	講師:ふじ内科クリニック 内藤いずみ先生	医師会主催
⑩	H27. 6/17	事例検討	事例:統合失調症の糖尿病患者への対応	27 年度計画
⑪	H27. 7/15	事例検討	事例:医療依存度の高い認知症者への対応	
⑫	H27. 9/16	事例検討	事例:未定	
⑬	H27. 11/18	事例検討	事例:未定	

(3) 住民向け講演会の実施内容

	開催日	開催内容	備考
①	H26. 7/9	講師:仙台往診クリニック 川島孝一郎先生	
②	H26. 11/16	講師:県立小出病院 布施克也 先生	十日町市主催
③	H26. 10/7	未定	27年度計画

＜平成28年度以降の活動について＞

「とおかまち地域ケアネット」は、地域医療再生基金を活用した「在宅医療連携協議会運営事業(平成25～27年度の3ヶ年事業)」に基づくため、今年度が最終年度となります。

一方で、団塊の世代が後期高齢者となる平成 37 年を展望して、病床の機能分化や連携、在宅医療・介護の推進、医師・看護師等の医療従事者の確保、地域包括ケアシステムの構築等の医療・介護サービスの提供体制の改革を目的とした医療介護総合確保推進法が、平成26年6月に成立しました。これを受けた「地域医療総合確保基金」が地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための新たな制度として位置付けられており、在宅医療・介護サービスの充実に必要な事業は、当基金の対象とされています。

平成 27 年度における「地域医療総合確保基金」への取組では、まずは在宅医療推進センターの設置や医療機関の相互連携、在宅医療と介護との連携体制構築に伴う情報共有システムの構築が主たる内容となりますが、在宅医療・介護等を十日町地域により根付かせるためには、これまで「とおかまち地域ケアネット」が行ってきた活動を今後も継続していく必要があると思われます。

このため、「とおかまち地域ケアネット」では、今年度後半に、多職種の研修や住民向けの普及・啓発活動が平成28年度以降も有効な形で継続されていくことも課題とし、貴会と連携しながら検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。



十日町市在宅医療連携モデル事業活動状況について

十日町市 市民福祉部
福祉課 係長 鈴木幸春

国では各自治体に対して2025年までに「住まい・医療・介護・予防・生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムの実現を求めています。本市においても、2025年の高齢化率が40.6%（第6期介護保険事業計画）になると推定されること、介護施設等に入所できない重度要介護認定者が500人を超えると予想がされていることから、地域資源の少ない中で医療・介護・福祉の連携体制の構築をどう進めていくかが大きな課題となっています。

また、本市が行ったアンケート調査において、約6割の高齢者が自宅での看取りを望んでいることなどから、早期の地域包括ケアの実現が求められているところです。

本市では、このような課題解決に向けた検討を行うため、十日町市中魚沼郡医師会様をはじめ、医療・介護・福祉の各関係機関から多大なご協力をいただき、平成26年度、27年度の2か年で新潟県の「在宅医療連携モデル事業」に取り組んでいます。

本事業では、①24時間対応在宅医療提供体制の構築、②顔の見える関係の構築を目的とした会議の開催、③多職種連携に係る人材育成及び市民啓発、④情報共有のための連携ツールの開発、の4つの事業に取り組んでおり、以下、26年度の取組みについて紹介いたします。

① 24時間対応在宅医療提供体制の構築

診療所医師が外来や訪問診療、特養施設の嘱託医などの多くの業務を1人で担っており、身体的・精神的な負担が大きいことから、負担軽減を図るために特養施設での嘱託医不在時に看取り等を他の医師が代わって行うネットワーク（協力医師の当番制）の確立に取り組んでまいりました。これは、モデル地域（十日町・川西）内の6か所の特養施設とそれぞれの嘱託医師6名から参加いただいて、施設での看取り発生時に協力医師と連絡を取る仕組みとなっています。実際にこのシステムを利用するケースは少ないかもしれませんが、システムがあること自体が医師の負担軽減につながるものと期待されます。

また、これに併せて、6施設での看取り介護の対応を統一し、職員の周知を目的とした特養施設の「看取りに関する手引き」を作成しました。

なお、施設において構築した体制づくりは在宅での看取りにも適用できるものと考えています。



② 顔の見える関係の構築を目的とした会議の開催

医療・介護・福祉の関係機関で組織する「十日町市在宅医療連携モデル事業推進会議」を設置し、本モデル事業の事業計画や予算、事業進捗状況等の報告を行うとともに、事業推進の課題等を検討する場として開催しました。また、医療や福祉関係者で構成されたICT連携ツール検討班や施設看取りマニュアル班等の活動、十日町病院・医師会・行政との意見交換会や診療所医師と介護・福祉関係者の合同会議などの開催を通して、顔の見える関係づくりが徐々にではありますが出来てきたのではないかと考えています。

③ 多職種連携に係る人材育成及び市民啓発

医療・介護・福祉関係者研修として、仙台往診クリニック院長 川島孝一郎氏を講師に「地域における在宅医療と介護の連携」をテーマに講演をいただき、在宅医療の先駆的な取組みを学びました。また、十日町市・津南地域の在宅医療を考える目的で平成 25 年度から活動を行っている「十日町地域在宅医療連携協議会」との共催で、事例検討会を実施し、多職種連携の重要性を確認しました。参加者の資質向上は勿論、顔の見える関係づくりという役割も果たした研修となりました。

市民啓発では、十日町病院の塚田院長、小出病院の布施院長からそれぞれ在宅医療をテーマとしてご講演をいただき、在宅医療の必要性や人生の最期を迎えるための準備等について考えていただく機会となりました。訪問看護ステーションポピー管理者の田辺様からは実体験に基づいた在宅医療や在宅での看取りの実際についてのお話をいただき、本人や家族に寄り添う訪問看護の状況に感銘を受けた市民も多くいらっしゃいました。

④ 情報共有のための連携ツールの開発

ICT連携ツール検討班を設置し、専門職間のコミュニケーションの充実と医療・介護情報共有を図る目的でICT導入に向けた検討を行いました。システム構築に時間を要したことから実際の稼働は本年 4 月からとなりましたが、システム利用登録者数は 6 月末現在で 150 名となっています。今後は、実際に大勢の方から利用していただく中でより使い易く、連携の効果が上がるよう改修を加えていく予定です。

本年 4 月の介護保険制度改正では、在宅医療・介護連携事業が市町村で実施する地域支援事業の包括的支援事業に位置付けられました。当市においては、本モデル事業での取組みを足掛かりとして、医療・介護・福祉関係者間の連携が十分に図れるように進めてまいりたいと考えています。

◆ 地域医療研修コーディネーター育成事業報告 ◆

今年度は下表のスケジュールで研修医の先生方(4名)を受け入れ致しております。

今年度も保健・医療・福祉・教育機関の他、多岐にわたり大勢の皆様にご理解いただき御協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

【平成 27 年度地域医療研修事業 研修医一覧表】

No.	受入月	研修医氏名	指導機関 (指導医名)	所属機関
1	7月	細井 起翔	町立 津南病院 (佐野 浩斎)	東京慈恵会医科大学
2	7月	丸本 裕和	山口医院 (山口孝太郎)	東京慈恵会医科大学
3	10月	船木 隆司	町立 津南病院 (藤川 透)	東京慈恵会医科大学
4	10月	伊藤 祐太	富田医院 (富田 浩)	東京慈恵会医科大学

地域医療研修 十日町・津南地域にて

東京慈恵会医科大学附属病院
研修医 2 年目 村木 國男

平成 27 年 2 月の 1 ヶ月間、十日町市で開業されている諸先生方を中心に地域医療を学ぶ機会を大学から得た。私は学生時代競技スキー部に所属しており、しばしば飯山市や野沢温泉村を訪れ長期滞在する機会があったため、国道 117 号線や信濃川付近に親しみを感じていた。母が飯山日赤病院に以前勤務していたこともあり、しばしば飯山や野沢温泉は豪雪に見舞われ、自宅で生活されている方が急変された際に雪に閉ざされた民家へ救急隊が着いた際には手遅れになっていたという話や除雪での不幸な事故があるという話を聞いていた。今回、雪が最も深い 2 月に研修ということもあり地域での生活や医療が雪によってどのように影響を受けるのかを中心に経験できるだろうと思っていた。まず感じた事は、十日町や津南は飯山と比較し雪が多かったことである。十日町に到着した初日より想像以上の降雪を経験しこれからの生活に不安を感じることとなったが、近年はこれでも除雪技術が向上し生活は楽になったと聞く。深夜から重機での除雪作業を始め、地域の人々が活動するところには主要な道路は作業が完了し、その後各々の家の除雪をするという。除雪作業に伴う健康被害は腰痛やばね指、また除雪中の事故などが多いという話であり、2 月の上旬は様々な地域で開業されている先生方のもとで研修をさせていただいたが除雪で腰を痛めた方や調子が悪くなる方など



もいらした。また、雪が降る事や鉛色の空のせいか気分が塞ぐ方も増えるようで、そのことも体調の悪さに拍車をかけていたと思われる。

地域の高齢化も進行しており、外来を受診される患者さんたちは大学病院の方と比較し平均 10 歳程度高齢のように思われた。そのような方々であるので当然疾患は 1 つではなく、循環器・呼吸器・糖尿病の内科や整形外科等多岐にわたる慢性疾患を持つ方が多く、医師不足に悩む当地域においては開業の先生方が内科・小児科・外科・精神疾患に関しても診療されている事に驚いた。大学病院ではこのような診療体制はなかなか経験できず新鮮であったと同時に、開業後も勉強を続ける必要性を痛感する事となった。

2 月中旬に研修した上村病院では急性期の病床から療養型、また併設する施設に老健・特養を持ち 1 つの病院を中心とする医療機関群による地域完結型の医療を体験する事となった。また併設する温泉付きの健康増進施設での健康な体作り、



り、地域を訪問し体操教室を開催するなどの様々な工夫をし中里地域を中心とした地域住民の健康づくりを経験する事となった。

2 月下旬は津南町のみさと苑での研修をさせていただいた。多くの老健は病院や診療所が併設されているが当施設に関しては単一の施設であり珍しいという。入所者へのサービスはもちろんのこと、言語聴覚士を有し嚥下や発語のリハビリテーションも行える稀有な施設と思われた。幸い実習期間に大雪には見舞われなかったが利用者の送迎や訪問介護・リハビリでは津南地域という日本有数の豪雪地帯で非常に困難となる場合があると聞き、現に国道は除雪がしっかりされて交通の便に不自由なかったが側道に入ると視界がたちまち雪壁に覆われ、交通の不便を感じ、また心の底から良好な天気感謝した。

今回研修させていただいた全ての場所において雪の影響は大きく、日々の生活・健康に大きく影響を及ぼしている事が改めて実感できた。

最後に、十日町・津南地域においてご多忙の中研修に時間を割いてくださった諸先生・スタッフの方々に篤く御礼を申し上げたいと思います。

最も雪が深い季節での 1 ヶ月間、当初はどうなるかと思っていましたが大きなトラブルもなく無事に過ごせた事、このような貴重な体験をできる研修を組んでくださった医師会事務局の方々にもありがとうございました。町立津南病院や十日町市においても私の母校である慈恵医大出身の先生方が活躍されており、私自身この地域に将来的には貢献できたら、と思えた 1 ヶ月間でした。

重ね重ね、ありがとうございました。

津南病院での1か月間の研修を終えて

東京慈恵会医科大学附属病院

研修医 2年目 細井 起翔

津南病院の外観を初めて見た時、東京で二次救急指定を受けているような病院と同じような施設に見えました。しかし内部の様子はまるで違い、常勤医師は少なく、さらには一番若い医師ですら本院の医局長クラスの世代よりも上であり、看護師さんもベテランの方々が多く衝撃を受けました。患者さんが高齢者だらけである事などは想像通りでしたが町に開業医の医師が一人しかいない事もあり、小児が思っていた以上に多いことに驚きました。

地域の現状にも今まで知らなかった事、勘違いしていた事が多く驚きました。まず、病棟の看護師さんが不足、定年の問題もあって来年から病床数を大幅に減らさざるを得ない状況である事を知り、不足しているのは医師だけじゃないということが分かりました。



次に在宅での介護が難しい高齢者の施設に関して、公営の施設が不足しているのは建設費とかが足りないからだと思っていましたが、実際に出来て間も無い施設に行ってみると数百日待ちの状態にも関わらず、一人一人のスペースが広々と設計されており、もっと詰め込めばもっと多くの人が入所できるのではないかと考えられるようなものになっていました。おそらく、そのような構造になっていないのは介護者の数が不足している事が原因であるように感じました。

そして、そのような医療関係者不足の場所にも関わらず歯科医師は余っている状態であるという事に一番衝撃を受けました。今でこそ医師も不足している状態ですが、状況がひとたび変わってしまえば供給過多になってしまい、非常にコストがかかる外勤制度自体が崩壊してしまえば大学病院は人件費を大幅に上げる事ができないでしょうから医師数を削減して個々の給与を上げる事になる(または給料はあまり上がらず自然に退職者が増える)、削減された医師は余剰となりさらに供給過多になってしまうという負のスパイラルに陥る事態が到来するのでは無いかと危惧させられました。

また、町の保健職員の方の案内で寝たきり防止目的の高齢者の運動を見学し、参加されている方々のほとんどが、失礼な言い方ではあるものの、いつ寝たきりになってもおかしくない方々でありすでに飽和状態にある介護サービスの需要がさらに高くなってしまふ可能性は十分にあり得る事なのだ実感させられた。



最後になりましたが直接ご指導頂いた林裕作先生をはじめ津南病院の諸先生方、医療スタッフならびに事務のスタッフの方々、一か月間有意義な実習をさせて頂きまして本当にありがとうございました。

1か月間の地域医療研修を終えて

東京慈恵会医科大学附属病院
研修医 2 年目 丸本 裕和

ご縁がありまして1ヶ月間地域研修ということで十日町にて研修をさせて頂きました。

いろいろな診療所や病院を回らせて頂いて感じたことは、見ず知らずの研修医を熱心に指導して下さる先生方の熱心な指導体制でした。新患の診察や処方までひと通りやらせていただくこともありましたが、指導医の先生に最後にしっかりと指導して頂き、また適切なアドバイスを頂戴し今後の診療の糧とすることが出来ました。大学病院で診療を行っているとうみでも急性胃腸炎だろうと思われる人にも(本当に必要かどうかは置いておいて)採血やCTを施行することがよくあります。また、大学では基本的には入院は包括医療であり、検査も何気なくオーダーしており個々の検査やコスト・薬価に関して気を配ることはほとんどありませんでした。地域の中の診療所では限られた資源や人員の中で本当に必要なレベルの検査や診察が必要とされ、どの段階まで自院で見れるのか、専門機関にコンサルトするべきタイミングはいつなのか、医療経済や患者負担などを常に考えていく難しさを感じました。

この地域医療研修に来る前、地域医療とはいったいどんなものだろう?と、ずっと考えていました。また十日町で働いている先生方がどのような経緯やバックグラウンドをもってして診療を行っているのか疑問を抱いていました。研修をしてみて多くの先生がこの地にゆかりがあり、また10年以上も診療を行っている先生もいらっしゃるのだと気づきました。外来診療を多く見せていただきましたが、患者に対して落ち着いた対応をされており、また患者が「先生のところじゃないとダメなんです」とおっしゃっていて、これが地域に密着した医療の形の一つなのだと実感しました。こうした信頼関係を築いていく以前の問題として、患者の考え方や仕事、経済状況や家族関係を含めてどれだけ広く把握できているかが重要であり、またそのような関係を構築するのが地域医療の醍醐味であり難しさであると実感しました。

また、今回の研修では診療所のみならず往診や老人保健施設や特別養護老人ホームに伺う機会がありました。普段大学で働いているとほとんどそうした施設と関わりを持つことはなく、施設に関する知識は恥ずかしながら国試で得たことしか持ち合わせていませんでした。地域において老健等の施設が足りておらず常に入所待ちの状態であること。また施設に関わるスタッフの確保が大変であるなど現実の問題を直に聞くことが出来ました。実習では実際に入所者の食事介助やレクリエーションを一緒に行ったりと恐らく今後の医師人生ですることのない貴重な経験をさせて頂きました。

私自身としては総合医や家庭医になりたいというよりも、自分の強みの専門を持ちつつかつ総合的に診察を行える医師になりたいという気持ちを持っています。ある程度、専門分野の技術や知識を習得した上で医師として地元に戻って地域医療に貢献できればと考えています。

この1ヶ月の研修で往診や診療所での地域との関わり、地域で医師としてどのように患者や行政と関わっていけばよいのかなどを学ばせて頂きこのことは将来地域に戻り開業しようとした時に必ず糧となると思っております。

最後になりましたが富田先生はじめ多くの先生方、病院・診療所・施設スタッフの方々にはお忙しい中あたたかく迎えてくださりありがとうございました。また、本研修をコーディネートくださった医師会事務局の庭野さんには研修中大変お世話になりました。次は是非厳冬期に伺ってみたいと思っております。来年以降、外勤等機会がございましたら十日町で働ければ幸いです。



十日町市中魚沼郡学術講演会及び研修会の開催報告

■ 医療従事者スキルアップ研修会 ■

第13回スキルアップ研修会

目的：在宅での看取りを学ぶ

演題・講師：

●いのちの不思議な物語

～在宅ホスピス医として患者さんや家族に
寄り添い続けた約30年の経験談～

山梨の小さな緩和ケア診療所
ふじ内科クリニック 院長 内藤いづみ 先生

日時：平成27年3月23日(月)18時30分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス10

参加者：167名

第14回スキルアップ研修会

目的：スポーツにおける顎顔面領域の外傷例を紹介しマウスガードの役割を知る

演題・講師：

●スポーツにおける口腔外傷 ～マウスガードの役割について～

日本大学松戸歯科部顎口腔機能治療学講座
専任講師 鈴木 浩司 先生

日時：平成27年5月13日(水) 18時30分～

会場：十日町情報館

参加者：31名

第15回スキルアップ研修会

目的：スポーツにおける顎顔面領域の外傷例を紹介しマウスガードの役割を知る

演題・講師：

●みんなでワーキング ～事例検討をと通して～

事例テーマ

「糖尿病で血糖コントロール不良の65歳単身統合失調症患者の在宅医療支援」

事例報告者 相談支援センターみなみうおぬま 堀口 賢二 専門相談員
厚生連中条第二病院 横川 純一 精神保健福祉士

講師(助言者)南区ケアプランナー菜の花管理者 石井 哲也氏

在宅介護支援センター堀之内管理者 角谷 宗敬氏

日時：平成27年6月17日(水) 18時30分～

会場：十日町地域地場産業振興センタークロス10

参加者：165名

■十日町市中魚沼郡医師会学術講演会・十日町市中魚沼郡学術講演会■

日 時	平成 27 年 3 月 23 日(月)	会場	クロス 1 0
座 長	医療法人社団 富田医院 院長 富田 浩 先生		
特別講演	十日町市における認知症治療の現状について		
講 師	新潟県立十日町病院 神経内科 診療部長 山崎 元義 先生		
座 長	新潟県立十日町病院 神経内科 診療部長 山崎 元義 先生		
基調講演	認知症 460 万人時代を支える脳と心と複雑系の話し		
講 師	鎌ヶ谷総合病院千葉神経難病医療センター センター長 湯浅 龍彦 先生		
参加者	37 名		
日 時	平成 26 年 11 月 18 日(火)	会場	クロス 10
座 長	津南町立津南病院 名誉院長 石川眞一郎 先生		
特別講演	DPP-4 阻害薬 Next Stage へ～新たなる治療戦略の可能性～		
講 師	東京慈恵会医科大学付属柏病院 院長 東條 克能 先生		
参加者	42 名		
日 時	平成 26 年 12 月 4 日(木)	会場	ラポート十日町
座 長	一般財団法人 上村病院 院長 上村 斉 先生		
特別講演	ABC分類を用いた胃がん検診の光と影		
講 師	川崎医科大学 総合臨床医学 准教授 井上 和彦 先生		
参加者	44 名		
日 時	平成 26 年 12 月 16 日(火)	会場	ラポート十日町
座 長	医療法人社団 山口医院 院長 山口孝太郎 先生		
特別講演	運動器疼痛疾患の落とし穴		
講 師	新潟大学医歯学総合病院 魚沼地域医療教育センター 特任教授 生越 章 先生		
参加者	42 名		
日 時	平成 27 年 2 月 17 日(火)	会場	ラポート十日町
座 長	新潟県立十日町病院 内科部長 丸山 弦 先生		
特別講演	機能性ディスペプシアの診断と治療		
講 師	さくらライフクリニック 院長 松枝 啓 先生		
参加者	42 名		
日 時	平成 27 年 3 月 5 日(木)	会場	ラポート十日町
座 長	医療法人社団 大熊内科医院 院長 大熊 達義 先生		
特別講演	冠動脈、末梢血管、弁膜症カテーテル治療のブレイクスルー		
講 師	立川総合病院 循環器内科 主任医長 高橋 稔 先生		
参加者	15 名		

■ 魚沼内科外科セミナー 上半期報告 ■

第 230 回 (H27. 2. 3 小千谷総合病院)

- ・ 間質性肺炎に合併した肺癌例
- ・ 診断に苦慮した大腸憩室穿孔例
- ・ 肉芽腫性胆嚢炎
- ・ 腫瘍形成性膵炎

第 231 回 (H27. 3. 3 ラポート十日町)

- ・ 潰瘍性大腸炎講演会

第 232 回 (H27. 4. 7 小千谷総合病院)

- ・ HAM (HTL-1 associated myelopathy)
- ・ 自己免疫性膵炎と
- ・ IgG -4 関連胆管炎
- ・ PSC との鑑別診断
- ・ 後腹膜線維症
- ・ 上行結腸神経鞘腫

第 233 回 (H27. 5. 12 十日町病院)

- ・ アルコール性肝硬変十二指腸下行脚静脈瘤破裂例
- ・ B 型肝硬変十二指腸水平脚静脈瘤破裂例
- ・ 肝硬変に伴う直腸静脈瘤
- ・ 肝癌に対し TAE 施行後肺塞栓で死亡した例 (A-V shunt 例)

第 234 回 (H. 27. 6. 2 小千谷総合病院)

- ・ Stage I 乳癌手術例の長年限経過後再発例 (骨シンチ診断)
- ・ ESD を施行した食道 basaloid cell carcinoma
- ・ 画像検査で hyper vascular を呈する疾患 1
- ・ 神経鞘腫 (上行結腸、直腸)
- ・ 空腸壁外発育型 GIST
- ・ 脾動脈瘤
- ・ paraganglioma

第 235 回 (H27. 7. 7 十日町病院)

- ・ 透析腎癌
- ・ 胃マルトリリンパ腫
- ・ 含気性胆石
- ・ 画像検査で hyper vascular を呈する疾患 2
- 膵癌
- 膵神経内分泌腫瘍
- 膵動静脈奇形

☆☆ 十日町地域産業保健事業報告書 ☆☆

十日町地域産業保健センター
コーディネーター 江村文雄

1. 事業実績

■相談実施件数(期間:平成26年4月1日～平成27年3月31日)

平成26年度 無料健康相談実績報告表	合計 (人)	
	計画	実績
I 健康診断に基づく医師の意見 相談事業場数	150	115
II // 意見対象労働者数	1,200	900
① 脳心臓疾患有リスク者保健指導	500	464
② ②以外の有所見者数	450	263
③ 登録保健師による事業場訪問保健指導者数	150	135
④ メンタル不調者 相談・指導	50	24
⑤ 長時間面接指導者数	50	14(38)

※()従業員50人以上事業場

2. 新規活動について

労働衛生工学の専門家による個別訪問の産業保健指導を行います。内容として、小規模事業場を訪問し、作業環境管理、作業管理等の作業現場の改善について労働衛生工学の見地から無料で産業保健指導を実施致します。

▼十日町地域担当労働衛生専門員

一般社団法人 新潟県環境衛生中央研究所 高橋 良政 氏

3. 平成27年度各イベント開催協力依頼について(平成27年6月23日現在)

* 職(食)人ごったく:平成27年10月4日(日)10:00～14:00 十日町市場

相談医師:田中陽一先生 担当保健師:庭野保健師

* 十日町産業フェスタ2015:平成27年10月17日(土)10:00～14:00 キナーレ

相談医師:田中陽一先生 担当保健師:庭野保健師

平成27年10月18日(日)10:00～14:00 キナーレ

相談医師:山口義文先生 担当保健師:庭野保健師

* 第28回津南町健康まつり:平成27年10月18日(日)10:00～16:00 津南病院

相談医師:阪本琢也先生 林 裕作先生

担当保健師:大口保健師

■□■□■□ 平成 27 年 事業報告 □■□■□■

日付	名 称	会 場	担当者・出席者
1/6 日(火)	第 3 回 郡市医師会 新たなる財政支援に係る担当理事協議会	医師会事務局	山口副会長・塚田県理事
7 日(水)	平成 26 年 十日町市在宅医療連携モデル事業 ICT 委託事業に係る諸事務についての打合せ会	分庁舎 202 会議室	三役員・事務局
21 日(水)	平成 26 年 認知症対策推進協議会・高齢者 虐待防止ネットワーク運営推進協議会	十日町保健所	池田副会長
	すこやかファクトリー 長時間労働健康指導	すこやかファクトリー	山口副会長・江村コーディネイ
22 日(木)	第 65 回 妻有地区臨床研究会	県立十日町病院	会員
26 日(月)	㈱宮内測量設計事務所 保健指導	宮内測量設計事務所	庭野保健師・江村コーディネイ
	第 1 回 新潟県地域医療推進機構地域連携委員会	南魚沼地域振興局	富田会長
27 日(火)	魚沼地域医療連携ネットワーク協議会 (うおぬま米ねっと・理事会)	南魚沼市役所	富田会長
28 日(水)	十日町地域産業保健連絡協議会	労働基準監督署	池田副会長・事務局
29 日(木)	郡市医師会長・保健所長合同会議	新潟市	富田会長
30 日(金)	㈱宮内測量設計事務所 保健指導	宮内測量設計事務所	庭野保健師・江村コーディネイ
2/3 日(火)	㈱宮内測量設計事務所 保健指導	宮内測量設計事務所	庭野保健師・江村コーディネイ
4 日(水)	第 3 回 拡大理事会	分庁舎 202 会議室	役員・事務局
	十日町労働基準協会 労務担当者研修会	クロス 10	山口副会長・江村コーディネイ
9 日(月)	在宅医療連携に関する各事業について打合せ会	医師会事務局	山口副会長・江村事務局長
10 日(火)	十日町地域糖尿病ワークショップ実行委員会	十日町保健所	池田、山口副会長・江村コーディネイ
12 日(木)	第 2 回 十日町地域国民保健運営協議会	十日町市役所	室岡、山口(孝)、富田先生
13 日(金)	第 3 回 郡市医師会長協議会	新潟県医師会館	富田会長
16 日(月)	新潟県がん・地域肺がん検討委員会	新潟県医師会館	山口副会長
17 日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
18 日(水)	第 5 回 十日町地域在宅医療連携協議会 (とおかまち地域ケアネット)	十日町保健所	山口副会長・江村事務局長
	十日町市在宅医療連携モデル事業推進会議	十日町保健所	山口副会長・江村事務局長
25 日(水)	魚沼圏域健康福祉ビジョン推進会議	南魚沼地域振興局	富田会長
	第 2 回 通常総会	クロス 10	会員・事務局
26 日(木)	第 3 回 十日町自立支援協議会	市保健センター	上村理事
	十日町市在宅医療連携モデル事業システム ICT 操作説明会	十日町情報館	事業参加医師・事務局
27 日(金)	第 3 回 十日町市介護保険運営協議会並びに包括支 援センター運営協議会及び密着型運営協議会	十日町市役所	大森先生
28 日(土)	第 142 回 組合会	新潟県医師会館	関理事・浅田理事
3/2 日(月)	十日町市健康づくり推進協議会	十日町市役所	池田副会長・江村コーディネイ
	十日町市介護支援専門員研修会	十日町情報館	江村事務局長
3 日(火)	魚沼地区内科外科セミナー	小千谷総合病院	会員
4 日(水)	訪問看護ステーション管理・保健所・市役所との 合同連絡協議会	分庁舎 202 会議室	会長、山口副会長、事務局
5 日(木)	とおかまち地域ケアネット 研修班会議	十日町保健所	江村事務局長
	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員

日付	名 称	会 場	担当者・出席者
3/6日(金)	CKD 研修会	十日町情報館	会長・山口副会長・事務局
7日(土)	第169回新潟県医師会臨時代議員会	新潟県医師会館	池田代議員
9日(月)	地域医療研修医コーディネーター育成事業 県による現地調査	医師会事務局	事務局
10日(火)	第4回魚沼圏域救急医療連携協議会	南魚沼振興局	富田会長
11日(水)	十日町地域医療連携協議会(災害マニュアル検討会)	分庁舎202会議室	会長、山口副会長、事務局
	平成26年度 地域職域推進協議会	十日町保健所	池田運営主管・江村コーディネ
12日(木)	平成26年度 胃がん読影検討会	レポート十日町	会員・事務局
15日(日)	JMAT チーム編成に関する検討会	新潟県医師会館	富田会長
17日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	レポート十日町	会員・事務局
18日(水)	十日町市自立支援協議会	分庁舎401会議室	上村理事
	十日町市在宅医療連携モデル事業検討会	千手コミュニティー	山口副会長・江村事務局長
19日(木)	平成26年 十日町地域肺がん検討委員会	クロス10	担当役員・事務局
20日(金)	㈱生越土建 健康指導	生越土建	庭野保健師・江村コーディネ
23日(月)	第13回医療従事者スキルアップ研修会	クロス10	会員・事務局
25日(水)	平成26年度 産業保健センター運営協議会	クロス10	担当委員・江村コーディネ
27日(金)	地域医療研修検討会議	南魚沼市役所	山口副会長・庭野
4/2日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	レポート十日町	会員
13日(月)	平成27年度 新入社員実務基礎セミナー	レポート十日町	庭野保健師・江村コーディネ
15日(水)	平成27年 第1回十日町地域在宅医療連携協議会	十日町市役所	山口副会長、江村事務局長
17日(金)	郡市医師会事務局長会議	新潟市	事務局
19日(日)	在宅医療情報システム説明会	新潟県医師会	山口副会長・事務局
21日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	レポート十日町	会員、事務局
24日(金)	とおかまち地域ケアネット研修班「事例検討会」 事前打ち合わせ会	クロス10	庭野
30日(木)	平成26年度 休日救急診療体制に関する会議	6/2 延期	
5/7日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	レポート十日町	会員
13日(水)	平成27年度 第1回十日町地域糖尿病ワークショップ企画委員会	十日町保健所	山口副会長
	㈱大海組 健康相談	㈱大海組	庭野保健師・江村コーディネ
14日(木)	十日町地域病診連携研究会「第1回準備委員会」	県立十日町病院	会員
	地域産業保健センターコーディネーター会議	新潟市	江村コーディネーター
15日(金)	十日町市中魚沼郡学術講演会	レポート十日町	会員・事務局
	㈱大海組 健康相談	㈱大海組	庭野保健師・江村コーディネ
19日(火)	魚沼基幹病院 竣工式	魚沼基幹病院	富田会長
	十日町地域メディカルコントロール協議会	十日町消防署	江村事務局長
	第14回医療従事者スキルアップ研修会	十日町情報館	会員・事務局
22日(金)	魚沼地域メディカルコントロール協議会(仮称)設置会議	南魚沼地域振興局	富田会長
25日(月)	平成27年度魚沼地域医療連携ネットワーク協議会	南魚沼市役所	富田会長
26日(火)	特定健診打合せ	十日町保健センター	江村事務局長

日付	名 称	会 場	担当者・出席者
5/28日(木)	平成27年度十日町市児童虐待防止連絡会	十日町市役所	江村事務局長
	第66回 妻有地区臨床研究会	県立十日町病院	会員
6/2日(火)	平成26年度 休日救急診療体制に関する会議	十日町市役所	会員・事務局
3日(水)	平成27年度 第1回郡市医師会長協議会	新潟県医師会	富田会長
4日(木)	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員
5日(金)	十日町市中魚沼郡医師会 平成26年度会計監査	医師会事務局	林監事・小林監事・事務局
	平成27年度十日町市在宅医療連携モデル事業 第1回 ICT 連携ツール検討班会議	十日町保健センター	山口副会長
9日(火)	第1回 理事会	サンクロス十日町	役員・事務局
11日(木)	十日町地域病診連携協議「キックオフミーティング」	ラポート十日町	会員・事務局
12日(金)	十日町労働基準協会 定時総会	ラポート十日町	江村事務局長
16日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	ラポート十日町	会員・事務局
17日(水)	十日町市在宅医療連携モデル事業推進会議	クロス10	山口副会長・江村事務局長
	第15回医療従事者スキルアップ研修会	クロス10	会員・事務局
20日(土)	第170回 新潟県医師会定例代議員会	新潟県医師会	池田代議員
23日(火)	第1回 通常総会	クロス10	会員・事務局
25日(木)	第1回 病診連携協議会	県立十日町病院	会員・事務局
27日(土)	新潟県看護協会十日町支部 通常総会	クロス10	山口副会長
29日(月)	市制施行10周年記念事業「アンチエイジング講演会」	クロス10	富田会長
7/1日(水)	平成27年度 地域医療研修医受入	十日町市・津南町	丸本先生・細井先生
2日(木)	第2回 十日町市防災基本条例審議会	十日町市役所	富田会長
	地域医療介護総合確保基金事業検討会	医師会事務局	富田会長・山口副会長・塚田県理事・事務局
	十日町市中魚沼郡医師会学術講演会	ラポート十日町	会員・研修医・事務局
15日(木)	十日町市在宅医療連携モデル事業 地域ワークショップ	千手コミュニティー	山口副会長
	十日町市・津南町結核対策委員会	十日町市川西支所	山口副会
	第2回みんなでワーキングー事例検討会を通してー	津南町役場	会員・事務局
21日(火)	十日町市中魚沼郡学術講演会	クロス10	会員・事務局
22日(水)	第2回十日町地域糖尿病ワークショップ企画委員会	十日町保健所	山口副会長・江村事務局長
23日(木)	新潟県議 尾身孝昭「議長就任祝賀会」	クロス10	富田会長
	十日町地域胃ガン読影検討会	十日町市役所	会員・事務局
24日(金)	魚沼地域医師会及び 地域保健センター職員合同研修会	小千谷市魚沼市医師会	事務局
	第1回十日町市介護保険運営協議会並びに包括支援センター運営協議会及び密着型運営協議会	十日町市役所	大森先生
25日(土)	第143回 新潟県医師会組合会	新潟県医師会館	関理事・浅田理事
27日(月)	とおかまち地域ケアネット交流会	ユキマツリ	会員・事務局
30日(木)	県福祉部との在宅医療に関する意見交換会	県立十日町病院	富田会長・山口副会長・塚田県医理事
	第3回 十日町市防災基本条例審議会	十日町市役所	欠席

※記載の青文字は十日町地域産業保健センター事業です。



ご挨拶

医療法人社団 大坪医院
院長 大坪隆男

先ずは、昨年9月29日緊急入院となり、3ヶ月の療養中に近隣の先生方には大変ご迷惑をおかけし、また大変お世話になりました事、申し訳ありませんでした。そして、本当にありがとうございました。後遺症のため診療時間を調整しながらの診療再開のため、未だご迷惑をおかけしているかと思いますが、今暫くよろしくお願ひ致します。

今回の入院を境に、非常勤で勤めていた立川総合病院を退職し、父も引退する事となりましたので、このタイミングでの入会となりました。「遅いぞ！」とお叱りのお言葉もあるかと思いますが、何卒よろしくお願ひ致します。

立川総合病院勤務時は消化器内科に在籍し、大腸疾患を担当していました。十日町地区は医師数に比し消化器医が充実しているので、いつも専門であるはずの消化器疾患を診察するときの方が身が引き締まる思いをしています。6月にスタートした魚沼基幹病院の消化器内科も立川総合病院時代の同僚が数名勤務することになったと連絡がありました。また、いつもお世話になっている十日町病院の先生方にも、そして近隣の先生方にも、しっかりと連携のためには、更なる努力をしなければいけないなど思っております。

私生活では、自宅が長岡で毎朝通勤1時間かけて通勤しており、家族は妻と大学生の娘と高校生の息子の4人です。自身の趣味は病気の前はゴルフと釣りや登山だったのですが、病後は美味しいお酒を飲むことだけになってしまいました。ゴルフは少しずつリハビリ中で、今のところ何とも言えませんが、美味しいものを食べ、美味しいお酒飲みリハビリは終了しステップアップ可能と判断していますので、機会があればお誘いいただければ幸いです。公私ともに今後ともよろしくお願ひ致します。

会員消息 4月～7月現在

- ◎入会 顔陳詒漢（希望の里松涛園）
丸山 弦（新潟県立十日町病院）
大坪隆男（大坪医院）
 - ◎退会 無し
 - ◎異動 林 一男（所属機関の変更）
大坪康男（会員区分の変更）
-

